

授業科目名	【Gカリキュラム】 法学政治学演習Ⅰ・Ⅱ ※本年度は開講せず 【EFカリキュラム】 法学政治学演習Ⅰ・Ⅱ	選択履修	開講年次	【G】2 【EF】2	単位数	【G】2 【EF】2
科目区分	基本科目／【G】教科及び教科の指導法に関する科目（-・-・-・-）／【EF】教科及び教科の指導法に関する科目（-・-・-・-）					
担当形態	単独	【G】教員の免許状取得のための（-・-・-・-）科目 【EF】教員の免許状取得のための（-・-・-・-）科目				
施行規則に定める科目区分又は事項等						
サブタイトル	環境行政法の基礎を学ぶ		担当者	八木 保夫		
授業概要	<p>【概要】</p> <p>法学政治学演習Ⅰ・Ⅱを通じて、地球規模で生起する現象も含め、種々の観点から議論されて関心も抱きやすい環境問題を具体的題材として取り上げ、それに係わる行政と法の仕組みを各論的に学ぶことを通じて、抽象理論的で難解な特徴を有するといわれる行政法理論の基礎知識修得へ向け、その準備段階を形成することを目指す。ただし演習科目であることから、演習Ⅰでは、法律学の基本スキル、例えば環境関連新聞記事・法律文献・判決文等の要旨要約作業、データベースによる判例・法令検索作業、CiNii等による法律文献検索作業、等を学生自身が実践・実習することにウェイトを置き、演習Ⅱでは、それらの継続に加えて行政実務見学・裁判傍聴等も体験し、報告・討論の実習機会をより重視することとする。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 法律学を学ぶ際に必要な基本的スキルを修得することができる。 ・ 法的文章の要旨の抽出による法的論点・問題点の把握、それらの解決策に関する法論理的思考の展開と自己表現・集団討論等を通じて、リーガル・マインドの錬成へアプローチできる。 					
履修条件	法学入門、民法概論・総則、憲法概論・人権、刑法概論、行政法概論等を履修済み、または同時履修すること。					
教科書・参考書	<p>【教科書】</p> <p>演習教材を、担当教員が準備して配布する。</p> <p>【参考書】</p> <p>授業中に、適宜紹介する。</p>					
授業回数	授業内容					
授業内容	<p>以下の内容について、年間を通して進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者自己紹介、教員紹介。演習計画説明。 ・ 関心ある環境問題について討論。環境関連新聞記事の課題提示。要約方法の説明。 ・ 環境関連新聞記事の要約報告・討論。法学関連雑誌記事の要約報告・討論。 ・ 「わかりやすい法情報の調べ方(DVD)」視聴。図書館見学（文献資料の所在場所等確認）。 ・ データベースを利用した判例検索方法実習。環境関連判例検索課題出題。 ・ 判例課題報告・討論。法令課題報告・討論。法律文献課題報告・討論。 ・ 裁判所法廷見学・裁判傍聴。 ・ データベース等を利用した法律・条例検索方法実習。環境関連法令検索課題出題。 ・ CiNii等を利用した法律文献検索方法実習。環境関連文献検索課題出題。 ・ 環境行政法の基礎的文献の配布、分担部分の決定。文献引用に関する注意点と方法の説明。 ・ 教材分担部分（判例・法令を含む）の報告・討論 ・ 放送大学DVD「現代環境法の諸相」視聴。 ・ 市役所等の環境行政担当部署・担当者へのヒアリング。 ・ 廃棄物焼却施設、污水浄化施設、自然環境保全区域等、実地見学。 ・ 演習取り組み活動の反省と総括。 					
予習復習内容	<p>予習：課題の調査方法の準備、報告・討論の準備。</p> <p>復習：課題への取り組みを通じて得られた知識の集約。</p>					
評価方法	課題に関する提出物・発表状況（30%）、討論への参加状況（30%）、演習活動全体を通じての取り組み姿勢（40%）、等を総合的に評価する。					
評価基準	授業に出席するのみならず積極的に参加し、課題、発表を達成するとともに、学習した内容を理解した者には「A」、不足がある場合にはその程度により「B」または「C」とし、出席、参加度または達成度が著しく低く演習を受講したと認められない者はその程度に応じて「D」または「E」とします。					
その他	<p>学生相互間、教員学生間の信頼関係及び協調的融和を尊重すること。</p> <p>※Gカ：法【Ⅰは選択必修（A）・Ⅱは選択必修（B）】ホ【Ⅰは選択必修（A）・Ⅱは選択必修（B）】情【Ⅰは選択必修（A）・Ⅱは選択必修（B）】／EFカ：法【選択必修（γ）】ホ【選択必修（γ）】経【選択必修（γ）】</p>					